

吉野復興大臣の岩手県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年9月6日(水) 12:10~12:18 於)盛岡市)

1. 発言要旨

今日は、「岩手県こころのケアセンター」を訪問させていただきました。福島、宮城のセンターには行ったんですけども、最後にこの岩手県に参りました。

そして、福島、宮城では、勉強することのできなかった、いかに、今震災から7年目に入って、心のケアが大事であるかという資料も見させていただきました。

実は、私自身が被災者です。一番大事な友人も津波で亡くしておる一人です。

ですから、今7年目に入って、津波の映像を見ることが嫌になってしまいました。私が、今津波の映像を見ることが嫌だということなので、今こそ心の復興、これが大事だというふうに、大臣就任してから痛感したところです。

私自身がそう思っていたところを、この岩手県こころケアセンターが学問的に裏付けをしてくれました。発災時、仮設で暮らしている時期、また復興住宅で暮らしている時期、そして定住と色々なステージで心のケアの中身は違いますが、課題が出てまいります。現在、「風化」により、特にソフト事業、心のケア等々の予算枠を、発災時より下げてもいいだろうという考え方もありますけれども、それは逆なんだという、今こそ予算を増やしていくべき時期なんだというところを、学問的に今日は勉強させていただきました。

平成30年度の概算要求で、29年度は14億の事業でございました。それを8億増やさせていただいて、22億を計上しているところでございます。

その中身は、岩手、宮城、福島に、心のケアセンターはあるわけですが、そこでの情報交換、交流、そういうところにきちんと使っていきたい、情報共有をしていきたいところが、心のケアセンター事業への大きな支出のところになるわけでありまして。

そういう意味で、今日、この岩手県を訪問させていただいて、私自身が思っていた、今こそ心のケアが、心の復興が大事なんだというところを勉強させていただきました。本当にありがとうございます。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 実際に現場の方と意見交換されて、どういったことが課題だと

いうふうに改めて認識されたかということと、それに対して国としてどういうふうに手当てされていくのかというのを聞かせてください。

(答) 今日、心のケアも含めてなんですけれども、災害医療のロジスティクスというお話を伺わせていただきました。

災害医療が一番大事なんですけれども、その大事な災害医療をきちんと行うための裏方ですね。いわゆる、ロジスティクスというところが、ここ5年間は文科省の事業で行われておったんですけれども、6年目に入ってその予算が切られてしまったという、そういうお話も伺いました。

直接復興庁の事業ではございませんけれども、お話を伺えば、ロジスティクスがきちんと機能して初めてちゃんと災害医療ができるということですので、本当に大事なところだなというところも、お話伺わせていただきました。これから東京に帰って、文科大臣に、その必要性をきちんと訴えていきたいというふうに思っています。

また、こころのケアセンターとしては、特に岩手県は、沿岸部が被災を受けているわけなんですけれども、4つの地域に、拠点をつくって、現場の方々が、週のうち月水金は必ず行く。ここから2時間半もかかって行くわけなんですけれども、そして全国の医大から、岩手県には毎日2人のお医者さんが来てくれる。そのお医者さんを連れて、現地に赴いて、心のケアをやっているというお話も伺ったわけです。

本当にそういう意味では、3県の中では、一番進んで、きちんとやっているという印象を持った次第です。

(問) 来年度の概算要求で、被災3県の心のケアセンターの連携強化を図るとというのが、先ほどご説明がありましたけれども、今日の会議の場の意見交換の中で、それに関して、何か岩手県側の方から要望というか、そういったものがありましたでしょうか。あと、今日を踏まえて、具体的にどういったバックアップが必要であるとお感じになったか教えてください。

(答) 一番の要求は、学長さんからロジスティクスの研究をこれからも続けていきたいということですのでございまして、特に、心のケアでは、14億から22億という大幅に予算を増やして概算要求しておりますので、その予算をもっと有効に使って、心のケア事業の層を厚くしていければいいなというふうに思っています。

(以 上)